

1. 調査報告概要表

作成日平成20年 4月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202824
法人名	有限会社アドスコミュニティーズ
事業所名	グループホームポプラ
所在地 (電話番号)	北海道札幌市北区新川3条4丁目8番40号 (電 話) 011 - 766 - 1173
評価機関名	特定非営利活動法人 アイケア・ネット
所在地	札幌市中央区南2条東1丁目1番地12
訪問調査日	平成20年 3月19日

【情報提供票より】(平成20年 2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 2月 2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9人, 非常勤 11人, 常勤換算	15.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円
敷 金	有(家賃の1ヶ月分)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,333 円		

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 75 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌さくら病院、メンタルケア札幌、ゆき小児歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域との連携がよく取れているグループホームである。運営推進会議も2ヶ月に1回開催され、地域からの様々な提案を受け、サービスの向上につなげている。避難訓練も実際の災害を想定して定期的に行われており、その際にも地域住民の協力やアドバイスが得られている。かかりつけ医との連携もとれており、緊急時の対応などがスムーズに行われるような体制作りがなされている。職員研修として1日利用者体験が行われており、利用者の目線に立ったサービスの提供に繋がっていると思われる。運営者が管理者として常駐しており、利用者の個々の生活を重視したサービスの提供に向け、継続的な取り組みがなされ、職員や利用者の家族等も入居したいと思えるようなグループホーム作りがされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点と取り組みとしては、利用者に応じた環境調整が行えるよう温湿度計の設置が行われ、市町村や地域との関係作りでは、運営推進会議を通して地域とのつながりが深まるよう内容の充実が図られたり、他事業所と連携がとれるよう取り組みがなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が全員で自己評価にかかわり、積極的な取り組みが行われており、よりよいサービスの質の向上に向けた取り組みが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、議題にはホームからの報告提案としてホームでの行事予定や結果報告、避難訓練への地域住民の協力依頼などがなされている。地域からの質問や提案としては、ホームを地域住民に知ってもらうために回覧板や新聞にポプラ通信を載せるよう提案されたり、町内会の行事案内と利用者が安全に行事参加できるための工夫の提案等がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ポプラ便りや利用者の状況報告をするおたよりを毎月家族へ発行している。現状では家族等も様々な面で満足している様子がみられるが、更なるサービスの向上を目指して、運営推進会議やアンケート等を活用することで家族が意見や要望を述べ、その意見や要望への対応を報告する機会を設けていくことが望まれます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内や地域の行事に積極的に参加することで、地域住民との日常的な交流が図られている。グループホームの避難訓練の際にも地域住民の協力やアドバイスが得られており、運営推進会議において地域からの様々な提案をしてもらいながら、地域との連携を深めることに繋げている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の運営・介護理念を掲げ、日々取り組みを行っている。また、運営推進会議等を利用してホームからの情報発信や地域の要望・提案を受けるなど、地域との連携を深めることに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常生活活動や個別ケアを重視し、利用者の目線で希望を持って日々暮らしていただけるよう支援を行うために、カンファレンスを行うなど理念の実践に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内清掃などの地域行事に参加したり、避難訓練などのホームの行事に参加してもらうなど、地域との交流に努めている。また、運営推進会議を利用して地域からの提案を受けるなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解し、全員で自己評価に組み込まれることで「気づき」につながり、更なる改善に向けた取り組みが行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	2ヶ月に1度に運営推進会議を開催し、ホーム からの報告や地域からの提案が行われている。 直近の運営推進会議では各種地域行事への参 加提案がされている。	○	現状も、地域住民の協力を得て、定期的な開 催がなされ様々な提案があるが、今後もより多 くの人達に参加してもらい意見の交換を行い、更 なるサービスの向上に繋げていけるよう取り組 みが継続されることが望まれる。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村と ともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは必要に応じた連携をとり、サービ スの質の向上に取り組んでいる。又、他事業者と市 町村へ同行するなどし、情報提供やサービスの 質の向上に努めている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状 態、金銭管理、職員の異動等について、家 族等に定期的及び個々にあわせた報告を している	ご家族の面会時に利用者の詳細な近況報告を 行うとともに、毎月発行するボプラ便りや担当者 からの手紙で利用者の生活状況を報告している。 又、金銭管理の報告も毎月行い、ご家族に内容 確認をしてもらっている。		
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	家族会を開催するなど、常にご家族とのコミュ ニケーションを図り、ご家族の意向等をくみ取りやす い環境作りを行っている。		
9	18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や 職員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、代 わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配 慮をしている	職員の異動や離職が少なく、利用者への安定し たサービスの提供が行われている。又、離職が あった場合でも利用者のダメージが防げるよう取 組みがなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者となり1日の生活を体験する研修が行われ、利用者の目線でサービス提供を行うための基礎となっている。外部の研修会や勉強会に職員が参加できるしくみがとられ、参加後には報告書やレポートが提出されている。	○	外部研修に参加した職員が、他職員に研修内容を発表し、教え伝えていけるよう報告方法を検討し、更に充実したものとするため取り組むことに期待する。
11	20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、管理者や職員が同業者や医療関係者と交流ができるよう取り組みをおこなっている。職員が他事業所へ見学に行くことで自己のサービスの見直しにつながっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームを見学してもらい納得した上での入居を行っている。居室には利用者が身近に使用していたものを置くことで安心して暮らしていけるよう配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「家族のように」を方針にしており、職員は利用者を尊重し日常生活の支援を行っている。利用者も自分の役割をもち生活することで共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを重視したサービスの提供に努めており、日々の観察や利用者や家族からの聞き取りなどにより利用者の意向を把握し支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよい暮らしが送れるよう、利用者の日々の生活状況を記した個別記録を作成し、全員で介護計画の作成に取り組み、利用者や家族の要望を受けて介護計画の作成が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しをするとともに、必要に応じた介護計画の見直しが行われている。介護計画の見直しの際には、個別記録に記載してある気づきや日常の会話の中から発現する要望を参考に、利用者の状況に応じた見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や状況に応じた支援が行われている。今後、デイサービスやショートステイを取り入れた支援を行っていくために取り組みをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医等との連携がとれており、必要なときには連絡をとり、判断を仰げるような体制がとられている。ホームに看護師がおり、医療機関との連携を深める役割を担っている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する利用者や家族等の意向は把握し、関係者間での方針の共有がなされている。必要時には家族や医療機関と相談をし対応している。	○	利用者や家族、かかりつけ医等関係者の意向を統一し、利用者にとって良い対応が取れるよう更なる話し合いがなされていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の取り扱い方を理解しており、個人記録への記載や、日々の利用者への対応も一人一人の尊厳に配慮されている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを大切にし、個別ケアを重視した支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた形状や量、盛り付けに工夫がされている。利用者の食べたい料理をメニューに取り入れたり、鏡開きにはおやつにお汁粉にするなど季節感を取り入れたメニューにすることで食事を楽しむことができるよう支援が行われている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできることを把握した上で、役割やレクリエーションの支援を行っている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に買い物に行ったり、散歩に行ったり、利用者個別の外出支援が行われている。外出が困難な場合でもホーム裏のベンチなどお茶の時間を設けるなどしている。又、年に一度は温泉への1泊旅行を行うなど普段いけない場所への外出支援も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関の施錠をしているが、日中は玄関の施錠は行っていない。利用者の外出傾向を把握したり、チャイムを設置することで鍵をかけないケアへの取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	実際の災害を想定した避難訓練を定期的に行っている。消防や近隣住民の協力やアドバイスを受け、利用者が安全に避難できるよう取り組みが行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が1日に必要な栄養や水分を摂取できるよう、一人ひとりの摂取量を個別記録にて把握し、支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく過ごしやすい空間となっている。共有空間には、季節の飾り付けや利用者の写真を飾る等、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。日中は自然と利用者が居間に集まり寛いでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや利用者が好むものを置き、我が家としてストレスなく過ごしていけるよう配慮がなされている。又、温度や喚起にも配慮し快適に過ごせるよう支援が行われている。		

 は、重点項目。